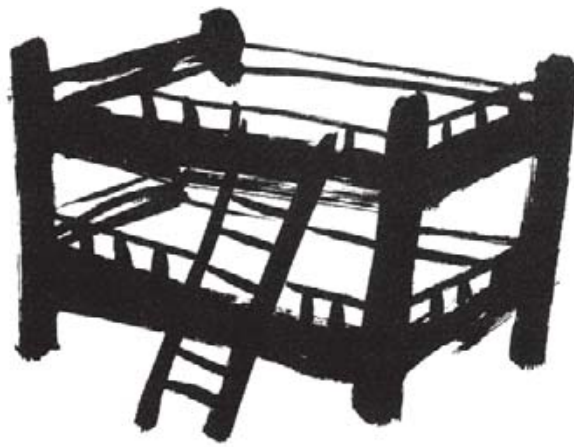


〔対 談〕

子どもの性格は
どう形成されるのか



子どもの性格はど

詫摩 武俊氏
(東京国際大学教授)

深谷 昌志氏
(静岡大学教授)

〔はじめに〕

社会心理学の南博、家庭環境学の山下俊郎など、その分野を代表するビッグな学者がいる。性格心理学の詫摩教授もそうした存在の学者だけに、40年をかけた学識をお聞きするのが楽しみだった。(深谷)

ふたごの基本的特徴は変わらない

深谷 ご専門は性格心理学、あるいは発達心理学ということでしょうか。

詫摩 性格心理学というのが一番近いのではないかと思います。子どもたちの性格がどんな形で発達していくのか、それにあたってどういう要因が1人の子どもの性格を作り上げていくのか、そんなことを勉強しています。

深谷 ご研究を初めて何年くらいになるのですか。

詫摩 40年以上になりますでしょうか。なかでも一貫していますのは、双生児の追跡です。

深谷 大変有名な研究ですね。

詫摩 ふたごの研究というのは一卵性のふたごと二卵性のふたごのそれぞれ似ている程度を比べるということです。ですから一卵性のふたごで非常によく似ていて、二卵性のふたごでは必ずしもそうではないという特徴があれば、それは遺伝の力がかなり加わっているのではないかと考えるのです。以前は子どものふたごをたくさん見てきましたが、最近

子どもより老人のふたごのほうが面白くなってきました。

深谷 面白そうですね。

詫摩 子どもの時は一緒に暮らしていますが、やがて結婚してそれぞれが別々の生活を始めます。40年、50年と経って70歳くらいになったふたごのおじいさんやふたごのおばあさんを探すんです。

深谷 つまり人生の後半の、経験とか環境の占める割合が大きくなるということですね。先生のご専門の性格ということになるとどうなるのでしょうか。

詫摩 まず、お年寄りのふたごが一卵性のふたごであるということが証明されないと具合が悪いわけです。一卵性のふたごで子どもの時は一緒に暮らしていたけれども、その後職業が別々になり、結婚相手ももちろん違う。つまりそれぞれ別々の人生を送って70歳になった、また片方は東京、片方は長崎というように居住地も違う。そういうふたごを探して、その2人に別々にお会いするんです。それぞれの長い人生を振り返って話していただきます。そして2人の一生を比べてみるのです。そうしますと違う部分もたくさんありますが、基本的な点においては似ているものがあるんですね。人に対する態度が大変おとなしくて静かだとか、あるいは積極的に攻撃的だとか、つまり2人の基本的特徴というのは、住む場所がいくら変わっても、職業が違って、やはり似ている感じがするのです。

う形成されるのか

一例を挙げますと、明治の末に金沢で生まれ、地元の高等学校を出てから東京帝国大学に行ったという75歳くらいのふたごにお会いしたことがあります。片方は法学部を出て裁判官になり、もう片方は農学部を出て農林省のお役人になった。お会いしたときはそれぞれ第一線を退いて、名古屋と富山にお住まいでした。子どもは6人と2人、職業も随分違いますが、別々にお会いしてお話をうかがってみると、先ほど申し上げたように基本的な性格がきわめてよく似ているんですね。話すときの間のとり方、態度、物腰など、随分似ているものだなと思いました。

深谷 人生の中で変わっていくものと変わっていかないものがあるということですか。

詫摩 つまり、その人の生涯を貫く赤い糸のようなものが、それぞれの人にあるのではないかと思うんです。「三つ子の魂百まで」という言葉がありますが、一人一人の人生を貫いているものが各人の中にあるはずで、それが何かはわかりませんが、遺伝的な条件が同じ一卵性のふたごの年配の方と会いますと、そこにその人の生涯を貫いているものはこういう特徴なんだなということを感じます。

深谷 特に先生のご専門の分野である性格のような部分については、本人が持っているものというのは、努力してもなかなか変えにくいということですか。

詫摩 例えば神経質というのは非常に感受性が鋭くて、いろいろなことに気がつくという

ことと、気持ちがあまり安定していないというのが特徴ですが、自分が神経質だということをそのまま肯定している人もいれば、あまりよくないと思っている人もおられます。よくないと思っている人は神経質でないように人に見せかけるわけですね。本来とても神経質で、例えばハエのとまった食べ物なんか気持ち悪くて食べられないといった場合、神経質はよくないということを実感すると、わざと本心とは反対の、つまりハエのとまったものを積極的に食べてみようとする意図的に自分を変えようと努力するのです。これが職業的な面になりますと、職業上、ある役割を演じなければならない。つまり自分の本来の性格とは違う面を人に見せるということになります。

詫摩武俊（たくま・たけとし）氏 プロフィール

1927年（昭和2年）千葉県生まれ。東京大学文学部心理学科卒業。東京大学文学部助手、ドイツ留学、学習院大学教授、東京都立大学教授等を経て、現在東京国際大学教授。文学博士。日本性格心理学会理事長。

主な著書『伸びてゆく子供たち』（中公新書）、『性格はいかにつくられるか』（岩波新書）、『好きと嫌いの心理学』『性格』（講談社現代新書）ほか。

詫摩武俊氏



印象管理などという言葉を使いますが、他人にどういう印象を与えるのがいいのだろうかと考えるのです。入社試験などの際に典型的に現れますし、お見合いの席などにもみられる現象です。

ふれ合い少ない現代の子ども

深谷 研究をお始めになった頃の子どもと今の子ども性格で、違っているところなど何かお気づきですか。

詫摩 もう少し、ふたごのことを述べさせていただきますが、ふたごに対して兄弟の序列をつける家とそうでない家があります。2人とも男の子だった場合に、名前を片方を一郎、片方には二郎とつける。そして、一郎の方を長男として扱い、名前を呼ぶときも一郎の方から呼ぶとか、大事なことは一郎の方に頼むとか、そういう兄弟の違いをつけて扱っているふたごと、まるでそういう違いのない、名前も秋夫と春夫というようにつけている家があります。兄弟の違いをつけているふたごの場合ですと、兄らしい特徴、弟らしい特徴がやはりでてくるわけです。

ところで、今の子どもと昔の子どもがどこが違うかということですが、昔といっても時代によって随分違ってきますが、今の親たちの世代の小学生時代と今の小学生を比べると随分変わっていると思いますね。子どもの数が少なくなったということと、めったに病気で死ななくなったこと。また、あらゆる面で

非常に豊かな生活をしている。さらに将来は立派な大学に入ってほしい等々、高学歴の期待というのがあります。それと人間関係が非常に薄くなっていると思います。現在の小学生がどんな人と身近に生活しているかという、だいたい自分の親兄弟と学校のクラスメイトだけです。それ以外の人とのふれ合いというのがあまりないんです。祖父や祖母から昔の話を聞いたとか、学校の先生の家に遊びに行ったという例は少ない。非常に限られた人としかつき合っていないのです。社会が豊かになったということで多くの子どもたちは個室を持ち、そこで寝起きして暮らし、テレビを自分の部屋に持っている小学生もいる。ですから、家族の中での話し合う機会が薄くなっている。茶の間、いろいろ端など、家族で話し合える場というのが非常に少なくなってきた。家庭そのものがホテルのシングルルームの集まりのような感じです。

深谷 人間関係が希薄な空間の中で生活しているということが、性格面にかなり影響するということですか。

詫摩 狭い空間で暮らしていて、しかも親の作った生活スケジュールにしたがった生活をしているということで、子ども自身の積極性とか自発性が失われてきているのではないかと思うんですね。

深谷 たくさん友だちがいて、親戚もたくさんあって、おじいさんおばあさんと一緒に暮らしている子どもと、一人っきりで、満ち足りた空間の中で、もまれることもなく育ってきた子どもとでは、かなり変わってきますか。

詫摩 そう思いますね。人間関係が希薄だと他人に対する適応の仕方がよくわからないということがでてくると思いますね。それから現実の生活が非常に満ち足りているから、未来に夢を持たなくなってしまう。今の子どもに大きくなったら何になりたいのかと聞くと返事がでてこないんですよ。新幹線の運転手になるとか、ケーキ屋さん、あるいは幼稚園の先生になるとか、以前は子どもの夢というものいろいろあったと思うのですが、未来

のことはあまり考えないようになってきているということが言えるのではないかと思います。またスケジュールがすべて立てられていますから自発的に何かをするということがないわけです。それは子どもの場合でいうと、いたずらをする子がなくなったということに現れてくる。おとなの目から見るとは困ることがいたずらであって、決して親が教えたことではない。子どもが面白いと思ってやるのがいたずらで、子どもの発達には大事なことなのです。

昔の子どもの遊びというのは4つ特色がありました。家の外で遊ぶ、仲間がいっぱいる、体を動かして遊ぶ、遊びそのものにお金がかかっていない。ゴムまり1つあれば男の子は楽しく遊べるし、ゴムひもが1本あれば女の子は遊べる。いずれも体を動かし仲間がいっぱいる。そういう遊びだったですね。今はそれがすべて逆になって、家の中で一人ぼっちで機械を相手に遊んでいる。遊ぶおもちゃも大変高価です。子どもの生活自体が非常に変わってきている。それらを考えていきますと、21世紀に活躍する日本の子どもの行く末は大変心配です。

家の中には「対等の仲間」は存在しない

深谷 その意味からも1.46（合計特殊出生率）という少子化傾向は、かなり気になる傾向ですか。

詫摩 しかし、それはあるところまでいきますと、また逆になってくるのではないかと思います。事実、平成5年から6年にかけて、20年ぶりに出生数が増えています。

深谷 関連しますが、一人っ子あるいは二人っ子の問題をどのようにお考えですか。

詫摩 日本は生まれた順番を非常に重視するカルチャーを持っているのではないかと思います。その根拠として、兄、弟だとか姉、妹という言葉があります。また何番目に生まれた子どもかということがわかるような名前のつけ方をします。例えば一番目は太郎、二番



深谷昌志氏

目は真二、次が敬三というようにです。英語国民に「あなたの兄弟は何人ですか」と聞きますと、「私にはシスターが2人とブラザーが3人います」という答えが返ってきます。つまり兄だとか弟というような言葉は使いません。

深谷 なるほど。

詫摩 それからお互いの呼び方なんです、外国では兄弟はたいてい名前の呼び捨てですが、日本では一郎が二郎を呼ぶときは二郎と呼ぶけれども、二郎が一郎を呼ぶときはお兄さんという呼び方をしますね。つまり自分から見た地位を言っているわけです。子どもの数が少なくなった現在でも、お兄さん、お姉さん式の呼び方というのはだいたい85%くらいだと言われています。これは独特の日本の文化ではないかと思うんです。

深谷 確かに日本では「ヘーイ！ジャック」というような言い方はしないですね。これは時代が変わってきてもわりと崩れないですね。

詫摩 かつては次男や三男は分家をするとかどこかに行くとかしましたし、女子は嫁にやるといって財産の相続権はありませんでした。つまり長男だけが財産を一人占めしていたわけですが、現在そういう制度は崩れてしまったにもかかわらず、お兄さんお姉さんという呼び名があったり、お兄さんだから、こうしなさいというしつけ方があるのも、日本の特色だと思います。

深谷 子どもの場合、対等の仲間というのは兄弟とか家の中にはいないわけですね。

詫摩 こうした意識は社会に出て会社に入ってから残るものなんです。常に序列ということを考える。席に座るときでもどこが上座だとか下座とか、名刺を出すときもどちらから先に出すとかですね。こうしたことは定着するとなかなか崩れないものなのです。

深谷 同じ性格形成でも、ヨーロッパのように基本的に対等な文化圏の性格形成と、日本のように序列化された社会の性格形成とは違いが出てまいりますか。

詫摩 性格形成というのはいろいろな要因があります。兄的性格、弟的性格などと言われますが、全ての長男にそれらしい性格があるのか、全ての末っ子にそれらしい性格があるのか、一人っ子はみんなわがままだということが言えるかという必ずしもそうとは言えない。性格を作っている要因は極めてたくさんのもので相互に関連しながら働いているのですから、一人っ子にだけみられる特色、長男にだけみられる特色というものを純粋な形で抽出するというのは非常に難しいのです。ただ、子どもの時から言われ続けているものですから、外国人に比べると日本人の方が兄弟の違いに基づく特徴というのはあるかもしれません。

「三つ子の魂百まで」とは

深谷 外国では一人っ子だとか二人っ子とかには関心を持つんですか。

詫摩 一人っ子のことが問題にされたのは今から100年も前にスタンレーホール（アメリカの児童・青年心理学者）の言った「一人っ子であることはそのこと自体が病気である」ということが日本に伝わったことが最初です。その頃は兄弟が4～5人というのが普通で、一人っ子は例外的な存在でした。しかし、今のように一人っ子がどこにでもいるような状況では、一人っ子の特徴というものを探すというのはなかなか難しいのではないかと思います。ひとくちに一人っ子といっても、他に兄弟がいてその子が亡くなったための一人っ

子か、あるいは何回も流産を繰り返した後やっと生まれた一人っ子なのか、子どもは1人いればいいと親が思って1人しか作らなかったのか、いろんな事情がありますので、一人っ子の特徴を抽出するということが自体がなかなか難しいのです。それよりも、どんな子どもたちと遊んでいたか、どういう親に何を期待されて育てられてきたか、おじいちゃんやおばあちゃんとの交流があったかという要因も一人っ子と同じように働いている。つまり性格形成に影響を与える要因というのは極めて多岐にわたっていて、しかもそれぞれが関連していますので、1人の事例研究はできるとは思いますけれど、一人っ子全体の特徴を抽出することは難しいと思います。

深谷 ステレオタイプに、おばあさんに育てられるとこういう子になる、一人っ子はこうなるということは言えないことがかなりあるということですね。

詫摩 ステレオタイプは、いわば偏見です。これはアメリカ人はこうだとか、フランス人はどうだとかという見方が一般にあるのと同じようなものでして、確かにアメリカ人にはそういう人が多いかもしれない。しかし、アメリカ人全体がそうだとは言えないということと同じです。

深谷 よく俗世間的に、性格というのは3歳までに決まると言われていますが、これはどうなのでしょう。

詫摩 これは人生の初期に親から受けたしつけが後々まで影響するという形に言い直すことはできるとは思います。子どもにとって一番重要な人は少なくとも幼児期においては親であって、親と子どもは非常に密接な関係で毎日接触している。3歳という年齢に限ったのは、3歳までは子どもはほとんど家庭の中にいるわけですね。しかし4歳になると幼稚園に行きます。つまり他からの影響が加わってくる。3歳までの間は家庭の影響というのは極めて純粋に働いてくる。したがって人生の初期に親がしっかり育てないと取り返しがつかなくなりますよという戒めの意味も「三つ

子の魂百まで」の中にはあると思います。

また性格というのは作られるものだと、よく受け身の形で言われますが、私はそうではなくて、自分で作っていかうという意欲的な面も無視できないと思います。つまり、もっと大胆な人間になろうとか、もっと魅力のある人になろうとか、あるいは人望がないなどというような反省があって自分自身ををコントロールしようという働きが出てくるのです。そして中学生くらいになると、自分をどういう方向に変えていかうかなどという努力が現れてきます。

いじめは愛の欠如から……

深谷 担任の先生からみて、引っ込み思案な子や内気な子は、どのような指導をしていったらいいんですか。

詫摩 引っ込み思案な子や内気な子というのは、打ち解けなくて、何を考えているかわからない。対応は大変難しいことですが、その子どもと先生が1対1で話す機会を持ていただきたい。1対1で話すといっても、子どもにお説教をするのではなくて、子ども自身の考えていることや感じていること、思っていることを自由に表現させる機会を作ってあげるといことです。

消極的で暗い感じの子どもというのは自信がない、自分が愛されていないのではないかという孤独感があります。自信をつけるということはすぐにはできないでしょうが、僕はこの先生にかわいがられている。私はこの先生に受け入れられているということがわかると、心を開いてくると思います。

深谷 現場の先生はお忙しいし、たくさんの子どもがいらっしゃる。内気な子というのは目立ちにくいので、特に問題がなければ気にはしていてもそのまま通っていつてしまうんですね。

詫摩 私は小学校以来、先生と呼ぶ方はおそらく100人くらいいたと思うんですが、今にしてこの先生のおかげでということを感じる



は小学校の先生なんです。私はかけっこの遅い子でして、いつもビリでした。運動会では4等以下のものは残されまして後片づけをさせられるんです。5年生の時でしたが、いつものように後片づけをしていると、担任の先生がいきなり私の肩をたたいて「おまえ『ブルターク英雄伝』という本を読んだことはあるか」と言われたんですね。本の名前も知らないで「どんな本ですか」と聞きましたら、それはローマやギリシャ時代の英雄のことを書いた本で、子ども向けの本があるから、ぜひ読んでみろとおっしゃるのです。父親に頼んで買ってもらいました。ハンニバルとかシーザーとかの伝記で、大変面白く読みました。それから1週間くらいして廊下で先生に呼び止められて、「あの本を読んだか」と聞かれ、今度は『吾輩は猫である』をすすめられて、おとなになった気分を読んだんです。

申し上げたいことは、担任の先生は私がかけっこが遅いということは十分承知しておられたんですが、この子は他の面でのびるのではないかということを知ってくれたのではないかと。そして個別に私を激励してくださったのではないのでしょうか。その後、先生のお通夜の席で多くの同級生が私と同じような経験をしていることがわかりました。先生は私だけでなく、一人一人の子どもに、それも失意の時に声をかけてくださっていたのです。このような一人一人の子どもを動かしてくださるような先生がいてほしいと思

ますね。

深谷 そういうことが契機になって、子どもの性格を変えていくこともできるということですね。

詫摩 自分の心の中に何か火がつけられたような気がするんです。その意味で、小学校の先生というのは子どもの人生に方向づけを与える力を持っているのではないかと思います。

深谷 ところで、長年お子さんの性格とか心理を研究なさってきたお立場からみて、今のいじめの問題はどのようにお感じですか。

詫摩 いじめる子どもがいつも悪い目で見られたり、親はどういう教育をしているんだと言われがちですが、いじめる側の子は家庭であまり愛されていなかったのではないかと、これが原因の1つに挙げられると思います。いじめとけんかの基本的な違いというのは、けんかというのは対等な間柄でお互いの利害が対立したとき、口や腕力で争う。どっちが勝つか負けるかわからない。ところが、いじめというのははじめから強いものと弱いものがあって、強いものが弱いものに対して攻撃を加え、弱いものが苦しんでいる様子を見て喜ぶという、非常に残酷な行為です。弱いものの苦しみを察することのできない、またそれを見て面白いと感じるような感覚がどうしてつくられたのかということをおぼろげに、家の中でかわいがられていなかったのではないかと思うんです。その子どもが親に本当にかわいがられていたかどうか。つまり夜遅くまで働いている親であっても、家庭の中で親が本当にかわいがってあげれば、いじめっ子にはならないのではないかと。いじめというのは学校の問題とされがちですが（学校の問題という場合もありますが）、親の基本的なしつけが非常にかかわっているのではないかと思います。

深谷 何となくわかるんですが、親から愛されていない子がどうしていじめになりがちなんですか。

詫摩 親から愛されていないと、自分を受け入れてもらえる人がいない。それから親から

「いい学校に入りなさい」などと厳しいことを言われても、うさばらしする場所がない。そこで八つ当たり、つまり欲求不満が弱いものに対して、はけ口を向けていくことだと思います。本来はスポーツなどで解消できるはずの不满感を、弱いものをいじめることで発散するのです。

深谷 先生のお話を通して、人から受け入れてもらうということが性格形成には大事だということがわかりますね。

詫摩 人から受け入れられるということは、かわいがられるということです。自分のことを考えてくれる人がいるということ、そういう人が親であり教師であるということ。そして自分を受け入れてもらっているという感覚がその子どもの心に大きな安定感を与えますし、またそれが基礎となって未来に向けて自立して生きていこうという気持ちになっていると思います。

深谷 自立の前提に愛されているという前提が必要だということなんですね。今の日本の親たちはわりと理知的になっていて、そのように受け入れるということが下手になっているのではないかなという気がしますね。

詫摩 目に見える成績ばかり気にして、早くから字が読めた、初歩的な算数ができたということを楽しみますけれど、お友だちとよく遊んだとか、人に何かしてあげたということなどはあまり評価しようとはしないのです。偏差値とか学校の成績が親にも先生にも重圧になっている、そんな時代ではないでしょうか。

深谷 ありがとうございます。

【対談を終えて】

一流の研究者と話していると、わかりやすい話し方をしてくれるのに気づく。難しい言い方をしているときは研究者自身がわかっていない場合が多い。詫摩教授の話も、そうした例にもれず、わかりやすかったが、よく読んでみると、一つ一つの言葉に重みがあるのが理解できよう。

文献紹介

『伸びてゆく子供たち』

詫摩武俊著『伸びてゆく子供たち』（中央公論社）から「伸びる子どもの条件—知ることの楽しさ」（P. 76～P. 89）を抜粋しました。

知ることの楽しさ

強制された勉強

小学校6年生の子どもたちに、母親からもっとも多くいわれる言葉は何かと聞くと、ほとんど異口同音に、「勉強なさい」ということであるという。

ある研究所が主催して、夏休みに小学生の合宿を行なった。5泊6日の日程で50名くらいが参加した。子どもたちは自分たちで食事をつくり、水あそびをし、虫を追い、花火を上げた。最後の晩、火のまわりにみんなが座り、話し合った。何が楽しかったかと聞かれて、ここではお母さんから勉強なさいとか、宿題はどうなっているの、などと言われなかったことだと答えたそうである。この合宿に参加したのは、とくに勉強の嫌いな子どもたちではないのである。

勉強というのは、やりなさいと強制されてやり始めるような受動的なものではないはずである。身動きもできないように追いつめられて、いやいや始めた勉強が大きく実を結ぶことは、どうも期待できないようである。

夜の8時半くらいになると、塾から帰る小学生の姿を駅の近くでよく見かける。元気よく仲間とふざけたりしている。この子どもたちに塾に行く理由を尋ねてみると、みんなが行くから、行かないといい中学に入れないから、塾の先生の教え方がうまくてよくわかるから、という答えが多い。なかには家において母親にうるさくいわれるのよりいいから、というのものもある。しかし、勉強するのがおもしろいから、という答えに接するのはごく少

い。

知らないことを学びとることにどうして関心がもてないのだろうか。勉強という言葉から、なぜ否定的な連想しか得られないのか。

子どもの質問への応答の仕方

探索欲求とか探索行動という言葉がある。人間だけでなく動物も、新しい場面や対象に出会うと眼を輝かし、耳をそばだてて好奇心を示すものである。

2歳から4歳くらいまでの子どもは、これなかに、なぜなの、どうしてなのと、目に入ったもの、耳に聞こえたものについて質問する。大部分の子どもが1度は質問する、ごく月並みなことから奇想天外な質問まで、内容はさまざまである。

なぜ電車は走るの、ごはんを食べないとどうなるの、どうしてお月さまは落ちてこないの、死ぬとどうなるの、なぜお父さんはひげを毎朝そるの、赤ちゃんはどうして生れるの、たまごを食べてしまってニワトリは困らないの、ネコには赤ちゃんでもなぜひげがあるの、どの親もこういった質問をされて返答に困った経験があるであろう。

このような質問に対して、どれだけ誠実に対応し、その子どもに理解できるように答えたであろうか。「大きくなればわかるわよ」「学校の先生がいまに教えて下さるわよ」「そんなこと聞いてどうするの」「いま忙しいからあとにして。うるさいわね」「そんなことどうだっていいじゃないのよ」と、答えにならない答えをしてしまったことはないだろうか。

子どもは自分から周囲に働きかけ、それに

対して応答が得られると満足する。おむつが濡れる、泣く、やがておとなが来て不快感を除去してくれる。泣くという自分からの働きかけが効果をもち、応答が得られたのである。いくら泣いても誰も来てくれないと、やがて赤ちゃんはおむつが濡れても泣かなくなってしまう。極端に世話をしてもらえない赤ちゃんにときどき見られる現象である。自分からの働きかけに応答が得られないと、しだいに無気力になってしまうのである。

質問をしても答えてもらえず、そればかりか叱られてしまう子どもが、そのときどんな気持ちになるかを思うと暗い気持ちになる。こんな光景を目撃したことがある。

夏の終りの頃、東京の国電の車内である。午後で車内は比較的空いていた。私の斜め前に、若い母親と4つくらいの男の子が座っていた。上品な感じの親子である。母親は何か服装雑誌を拡げていたが、男の子はしきりに母親に話しかけている。つぎつぎと話題は飛躍しているようである。電車の音でよく聞えないが、子どもは母親にこう言っている。「昨日の朝、ぼくはトマトジュースを飲んだ。今朝はコココーラを飲んだ。だけどオシッコの色は同じだった。なぜなの、ママ」というものである。口から入る液体の色と、排泄される時の色の差に着目した、実に素晴らしい質問である。私はこの聡明な子どもに母親がどう答えるだろうかと、じっと耳を傾けた。

ところが彼女は、子どもがオシッコと大きな声で言ったのが気に入らないらしく、「へんなこと聞くものじゃないのよ、オバカサンね」と、ちょっと子どもの方を見て言うだけで、再び服装雑誌に目を落した。子どもの鋭い質問は何にも対応が得られなかった。知ることの喜びを体験する大きなチャンスは失われてしまったのである。確かに子どもは大きな声でオシッコと言った。他の乗客もこの声に気がついたはずである。しかし、これは何ら不潔なイメージを与えるものではなかったのである。

もし私がこの子どもの親であったならば、

こんな説明をするだろう。「口から入ったものはみんな一度は胃という袋の中に入って、混ぜられ、やわらかくされ、それからお腹の中にぎっしりつまっている腸という管の中に入っていく。そしてからだの中に吸いこまれ、最後はオシッコとウンチになってしまう。口に入る前は赤い色をしていたものも、緑色をしていたものも、茶色をしていたものも、からだの中をまわっているあいだに色はなくなってしまうんだ」。この説明が生理学的に正確かどうかは別として、4歳くらいの子どものはこの程度の説明を聞いて「フーン」と納得し、お腹の中にはいろいろな働きをする場所があるのだなど、想像するようになるだろう。身体の内から外に出る汗、涙、よだれなどにも関心をもつようになるかもしれない。

知りたいという気持ちが満足され、さらにもっと知りたいという気になり、知ることがおもしろいと思うようになればいいのである。

興味の芽を育てる

幼い子どもの様子を見ていると、いま何に興味をもっているかわかるものである。昆虫のこと、動物のこと、乗りものごと、機械のこと、さらにおとなが読んでる文字のことなど、興味の対象はゆるやかに変化する。この子はいま何をもしろがっているかを察しとり、そのときに多少の刺激を与えると、子どもはそのことに夢中になるものである。

自分がおもしろいと思っているときの子どもの視線に注目してほしい。たとえば春の草花にとまっている蝶の様子を凝視している子どもの視線である。口をきりりと結び、心もちからだを前に傾けて、これは何だろう、何しているのだろうと見つめている。自分の内側から湧き上がってくる知的好奇心が働いているのである。静かに澄んだ時間である。このような時間を親は大事にしてあげてほしい。しばらくしてその対象から目を離れた子どもは、いきいきとした表情で自分の経験を語るであろう。

4歳の子どものには4年分の経験しかない。

おとなと違って毎日毎日が新鮮な対象なのである。道に黄色の自動車が止って電信柱を直していた。スーパーマーケットの前に、お金を入れると動く馬がいる。どこの横町からカレーライスのおいがした。イヌよりも大きいネコがいたなど、やや誇張されることもあるが、子どもの話を聞いていると、彼らの心に外の世界のさまざまな事物や現象が新鮮な感動をもたらしている様子がよく理解できる。子どもが親に語りかけてきたことに耳を傾け、必要があればもっとくわしい説明を求め、その上で、子どもの興味をさらに深めるような話をすれば、子どもはまた興味を拡大し、知的な好奇心は一段と燃えていくのである。

現在の親、とくに若い母親は幼児の教育にたいへん熱心である。お勉強の時間ですよと子どもを一室に連れ込み、表にタコかタイコの絵があって、裏に「た」と書いてある四角の板を出して、これ何と読むの、と尋ねる。読めると、鉛筆を手にもたせて紙に書かせる。あるいは「いち、に、さん、し」と教え方を教えたりする。子どもの興味の有無、やる気の有無にかかわらずである。そして早く字を読み、書くことができ、機械的に数を唱えられるようになると大喜びをし、同じ年齢でまだできない子どもをひそかに軽蔑し、その子の親を教育に無関心であると言ったりする。

多くの場合、字はいつかは覚えるものであり、足し算も引き算もやがてはできるようになるものである。おむつのとれるのが早い子どもと、遅い子どもとがいる。早くオシッコを教えれば、手がかからないし、諸費用の節約にもなる。それに何よりも成長が早いことのしるしと思われ、いい子という評価を受けやすい。しかし、個人の長い生涯を考えたとき、おむつのとれるのが2ヵ月早いとか3ヵ月遅いということは、何の意味ももたないものである。親の中には、とくに喜ぶべきことでもないことを喜び、心配すべきことでもないことを心配していることがあるのである。

子どもの多様な質問に誠実に、その子どもに理解できるように答え、その子がいま何に

興味をもっているかを察知し、その興味の日を育てるように、育てるようにと配慮している親、言葉をかえていえば、子どもの内側から湧き出てくるエネルギーを尊重し、それが消えることのないように工夫をしている親と、勉強ということで強制し、拘束するようにして一方的に教え込もうとする親と比べた場合、どちらの子どもが伸びていくだろうか。

のちに勉強がいやになり、しぶしぶと受け身のかたちで机に向かうのは、後のタイプの親に育てられた場合である。子どもの成長の過程で、どんなことをしてでも教え、しつけていかななくてはならないことはある。たとえば世の中のきまりとか規則を教える場合で、強制することが必要なこともある。しかし、知的なことがらについては、教えられるもののほうに学びたいという気持、さらに学ぶことがおもしろいと思う気持がなくては、大きな成果は期待できないのである。

学習態度への影響

就学前に知ることの喜び、知ることのおもしろさを身に着けた子どもは、小学校に入ってから次のような点で、そうでない子どもと違った傾向を示すようになる。すべての場合に必ずとはいえないが、大体においてこの傾向は顕著である。

第一は、教室における学習態度である。4割授業とか5割授業といって、教室で先生の話すことを一生懸命聞いている子どもは、半分くらいといわれることがある。

教壇に立ったことのあるものはすぐ理解できることであるが、教師である自分の話を目を輝かし、からだをのり出して聞いている子どもと、ソワソワと落ち着かず視線の定まらない子ども、漫然とほかのことに気をとられたり考えたりしている子どもがいるものである。要するに聞いている子どもと、聞いていない子どもがあるわけである。なぜこの違いがあるのか。理由は簡単で、おもしろいから聞いているのであり、つまらないから聞いていないのである。ひとりの先生の口から述べ

られる同じ内容を、なぜある子どもはおもしろいと思ひ、他の子どもはそう思わないのか。求める気持、知りたいと思う気持の有無がここで大きく問題となるのである。

授業をよく聞いている子どもは、教室の中ですべてのことを理解する。わからないことがあれば先生に質問する積極性を、このタイプの子どもはもっている。少数の例外はあるが、教師は質問してくる子どもを好意的に迎える。自分の授業に対する手応えがここで感じられるからである。筋の通った質問、着想の豊かな質問をしてくる子どもには、よほど不熱心な先生でない限り、親切に対応し丁寧に教えるものであり、結果としてその子どもの学力はますます伸びていく。

入学試験のある国立、あるいは私立の中学校を受験するつもりがあるならば、毎日の学校の授業を親はもっと重要視すべきである。塾に通わせる、家庭教師をお願いするというのは、小学校の教室での授業内容を補足するものであって、これに代わるものではないはずである。つまり学校できちんと聞いていないで、それを塾や家庭で教えてもらうというのは無駄なことである。塾に行ってもその効果が上るのは、学校の授業が十分に理解されている場合である。

読書量の違い

第二は、小学校在学中の読書量が違うということである。マンガや娯楽雑誌でなく、1冊にまとまった本をかなりの速度でつぎつぎと読んでいく子どもがいる。その本も歴史のこと、星のこと、昆虫の生態、偉人の伝記、冒険小説など多領域にわたっている。1冊の本を1日か2日で夢中になって読んでしまい、おおよそのところを理解するのである。読んで内容を理解する能力を読解力という。読解力は将来、文科系に進むにしても理科系を志望するにしても、すべての学習の重要な基礎となるものである。

読書に関する統計によると、中学生や高校生よりも小学生のほうが、平均して多くの本

を読んでいる。しかし、小学生間の個人差も大きい。図書室のよく整ったある小学校で、5年生の児童の1年あたりの貸出図書冊数を調査した。最高は200冊をこえ、最低はゼロであった。これは図書室のいわば利用率で、ゼロの子どもは親に買ってもらった本をたくさん読んでいるのかもしれないが、本を読みたいという意欲、読書を楽しみと思う気持ちに、子ども相互間でかなりの差があることは明らかである。

ここにも知的好奇心の強弱が働いている。親の中にはときどき自分で本屋に出かけ、子どものための本を買ってきて、読むように勧めるものがある。なかには読めと命令したり、読みなさいと哀願するものもある。その大部分は効果は稀薄である。馬に水を飲ませようと池のそばまで連れていくことは力があれば可能であるが、実際に口をつけて飲ませることはできないというたとえ話と同じである。

小学校の5年生の2学期から学年末の春休みにかけて、夏目漱石の全集をほとんど読んだ子どもがいる。晩年の著作や、明治時代の市民生活がどの程度理解できたかは疑問であるが、つぎつぎと読んでいったのは、おもしろいと思うものがあつたのであろう。またこの時期にとにかく読んだということが、この子どもの大きな自信になるであろう。

小学校の時期に本を読むおもしろさが身に着かないと、あとになってからテレビを見ることはあっても、読書には親しみがもてないのである。

夢中になる対象をもつ

第三には、以上のことと関連することであるが、夢中になる対象をもつということがあつた。小学校の頃に夢中になるものをもつた子どもは、あとで伸びるといわれる。鉄道、蝶々、模型づくり、ピアノ、切手の蒐集などいろいろあるが、強制されないで自分から進んで没頭する対象をもつてることが望ましい。

ある女の子は、たしか5年生の国語の時間

に「対馬丸」のことを習った。昭和19年の春、沖縄の小学生を九州に疎開させる途中、潜水艦の攻撃を受けて沈没、たくさんの幼い生命が波に消えたという悲しい話である。その少女はこの話に感動した。そして沖縄というところに興味をもった。沖縄に旅行に行ったこともなければ、身近に沖縄出身の人がいるわけでもない。観光案内のポスターなどできれいな海のあるところという程度の認識しかもっていなかった。

対馬丸のことを習ってから、彼女は日本とアメリカはなぜ戦争をしたのか、アメリカはなぜ沖縄に上陸したのか、どんな戦いがあったのか、老人や子どもは戦争のときどうしていたのか、戦争が終わってからの沖縄はどうなったのか、つぎつぎと知りたいことがでてきた。

彼女はまず学校の図書館に行って、沖縄での戦争のことや戦争後のことを書いてある本を探した。日本でこんなにはげしい戦争があり、軍人以外のたくさんの人が死んだことを知った。そのうちに彼女は、沖縄の地名や人々の姓に、あまり聞いたこともなければ、難しい読み方をするものがあることに気がついた。また「メンソーレー」などという独特の方言があることも本から知った。美しい砂浜や赤い屋根の民家の写真を見た。彼女の沖縄への憧れは強くなった。父親にも母親にも、本や写真を通して得た沖縄の話をした。

親たちはまたかと思ひ、顔を見合わせて微笑した。これより少し前、フランス革命を主題にしたマンガが、少女たちのあいだで人気を集めたことがあった。彼女もお小遣いをはたいてこの本を買い、それからさらに興味が発展して、大革命前後のフランスの歴史や、ヨーロッパの歴史の本を熱心に読み始めたことがあったからである。夢中になっている時期には、テレビも見なかった。宿題すらときに忘れて、朝、登校前にバタバタとやることもあった。自転車でしばしば公立の図書館に通い、本を借りてきては熱心に読みふけた。

こんどもそうだった。彼女は沖縄の歴史に

惹かれていた。日本と中国のあいだの列島だから、中国の文化の影響が強いのではないかと考えたのである。13世紀、14世紀の頃の沖縄のこと、薩摩藩との関係などつぎつぎに本を読んでいった。5年生とは思えないほどの読書力である。

夏休みの自由課題の作品に、彼女はためらうことなく沖縄の歴史を選んだ。せっせと原稿を書いた。稚拙な文字ではあったが、原稿用紙150枚の労作で、内容は大学生が書いたものといってもおかしくなかった。

興味をもったことに集中していく力は大したもので、先生にほめられたいとか、社会で5を取りたいという動機ではなく、おもしろくておもしろくてたまらないのである。自分の内側から強いエネルギーがほとばしり出るような感じなのである。その後、彼女は順調に成長した。子どもの頃は歴史が好きで、歴史家になって中国古代史を勉強するなどといっていたが、その後興味がかわり、現在は某国立大学で文化人類学を専攻している。知りたい、知ることがおもしろいという気持ちが彼女を支え、また駆動力となっているのである。

幼児期に、あることを反覆して教えられれば、それは覚えられていく。この過程で、学ぶことにおもしろさを見出すこともある。子どもの長い将来を考えたとき、教えこむことよりも、子どもの心の中に知りたいという気持ちをもつようにし、知ることのおもしろさを経験させることのほうが、はるかに大切なのである。

勉強がいやになってしまった子どもは、それ以外のことに対する興味が大きすぎたということもある。しかし、それ以上に、好きになり得たはずであったのに、親が育ててこなかったことが多いのである。

幼いときに物事を知ること、学ぶことの楽しさを体得した子どもは幸福である。知的事の習得は、自分から積極的な意欲をもつことによって支えられ、成果が期待できるのである。

単位：パーセント

お母さま方へ

アンケートのお願い

私どもは、日ごろ、お母さま方が子育てをどのようになさっているのかをおうかがいいたしたく、次のような調査票を作成いたしました。

結果はコンピュータで処理いたしますので、個人的にご迷惑をおかけすることは決してありません。お忙しいところ申し訳ございませんが、どうぞ協力くださいますようお願い申し上げます。

お手数ですが、用紙にご記入のうえ、封筒に入れて、のりづけし、無記名のまま、お子さんに先生までお持ちください。

東京学芸大学教授

深谷 和子

TEL 0423-25-2111 内線2900

東京学芸大学助教授

田村 毅

TEL 0423-25-2111 内線2893

文教大学女子短期大学部助教授

石川 洋子

TEL 0467-53-2111 内線260

〈記入のしかた〉

(例) あなたは、月に何冊くらいの本を読みますか？

ほとんど
読まない 1～3冊 4～5冊 それ以上

(もし3冊くらいだったら) 1 ——— ② ——— 3 ——— 4

以下、「お子さんは」とあるのは、この調査票をお持ち帰りのお子さんのことについてです。

① まず、あなたご自身についてうかがいます。

1) 現在、お子さんは何人ですか。

① () 人 → 男 () 人、女 () 人

1人	11.3	0人	1.9	0人	3.0
2人	55.4	1人	54.9	1人	59.1
3人	29.7	2人	35.9	2人	30.9
4人	3.2	3人	7.1	3人	6.7
5人以上	0.4	4人	0.1	4人	0.2
		5人	0.0	5人	0.1
		6人	0.1		

② この調査票をお持ち帰りのお子さんは、第 () 子、(1. 男 2. 女)

第1子	50.7	51.0	49.0
第2子	36.2		
第3子	11.8		
第4子以上	1.3		

2) もうお1人、赤ちゃんを産むご予定はありますか。

- | | |
|---------------------|------|
| 1. ぜひ産みたい | 2.5 |
| 2. 場合によっては、産むかもしれない | 6.9 |
| 3. 予定はない | 90.6 |

3) ① ご結婚はいつでしたか。

あなた () 歳、ご主人 () 歳

20歳以下	10.3	20歳以下	3.4
21~22歳	18.1	21~22歳	5.7
23~24歳	27.0	23~24歳	14.6
25~26歳	21.4	25~26歳	20.0
27~28歳	13.1	27~28歳	20.3
29~30歳	5.8	29~30歳	17.1
31歳以上	4.3	31歳以上	18.9

② あなたの結婚年齢を、その当時、あなたご自身はどうお考えでしたか。

- | | |
|--------------|------|
| 1. 少し早すぎた | 19.6 |
| 2. ちょうどいいくらい | 64.8 |
| 3. 少し遅すぎた | 15.6 |

4) ① 1番目のお子さんを出産なさったのは、何歳のときでしたか。

() 歳のとき

18歳以下	1.6	27～28歳	20.3
19～20歳	3.3	29～30歳	12.3
21～22歳	9.3	31～35歳	7.8
23～24歳	19.9	36歳以上	1.6
25～26歳	23.9		

② あなたの出産年齢を、その当時、あなたご自身はどうお考えでしたか。

- | | |
|--------------|------|
| 1. 少し早すぎた | 14.8 |
| 2. ちょうどいいくらい | 59.0 |
| 3. 少し遅すぎた | 26.2 |

5) お子さんが1歳くらいまで、育児は主にどなたがなさっていたでしょうか。

- | | |
|------------------------|------|
| 1. 主に自分（お母さま）が育てた | 86.0 |
| 2. 祖母（姑や実母）と自分とが共同で育てた | 9.4 |
| 3. 保育所やベビーシッターに預けた | 3.7 |
| 4. その他 | 0.9 |

6) あなたは、結婚や出産をしたときに、仕事（家業も含みます）はどうされましたか。

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1. 結婚して仕事をやめた（始めから仕事はしなかった方も） | 58.9 |
| 2. 初めての子どもを出産して、仕事をやめた | 23.9 |
| 3. 2番目、3番目の子どもを出産して、仕事をやめた | 2.3 |
| 4. ずっと続けている | 14.9 |

7) 現在のあなたの職業をお教えてください。

- | | | | |
|------------|-----------|----------|--------|
| 1. 専業主婦 | 2. パートタイム | 3. フルタイム | 4. 自営業 |
| 47.2 | 28.4 | 10.7 | 9.7 |
| 5. その他 () | | | |
| 4.0 | | | |

8) 結婚や出産を経て、現在にいたるまでに、あなたの仕事はどのように変わられましたか。

1. 仕事をやめた後は、ずっと専業主婦である	44.6
2. 退職して、その後パートタイムの仕事について	27.7
3. フルタイムの仕事をやめることなく、ずっと続けている	7.9
4. 退職して、またフルタイムの仕事に復帰した	5.1
5. 仕事をやめて、婚家の家業（お店や農業など）について	4.8
6. その他	9.9

9) あなたは（あなたを入れて）、何人きょうだいですか。

() 人きょうだい

1人	4.8	4人	16.1
2人	34.2	5人	7.0
3人	32.3	6人以上	5.6

10) あなたは小さい頃、ご自分のきょうだい数についてどうお思いでしたか。

1. もっときょうだいが、ほしかった	28.5
2. ちょうどよいと思っていた	58.0
3. 少し多すぎると思っていた	13.5

11) 一人っ子のお母さんだけお答えください。

なぜお1人にされましたか。一番あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 1人だけしか恵まれなかった	51.7
2. 仕事を続けるため	1.4
3. 経済や住居の広さを考えて	11.6
4. 子どもの世話が好きではないので	6.8
5. その他	28.5

② あなたのお母さま（実母）について、うかがいます。

1) あなたのお母さま（実母）は、何人きょうだいでしたか。

() 人きょうだい

1人	2.5	5人	20.4
2人	6.6	6人	13.7
3人	11.2	7人	12.7
4人	16.7	8人以上	16.2

2) あなたのお母さま（実母）は、ご自分で子育てをされている頃、ご自分のお子さんの数（あなたのきょうだい数）をどうお考えだったのでしょうか。推測してみてください。

- | | |
|-------------------|------|
| 1. もっと子どもがほしかったらう | 13.2 |
| 2. ちょうどよいと思っていたらう | 63.7 |
| 3. 少し多すぎると思っていたらう | 10.5 |
| 4. わからない | 12.6 |

3) あなたが小さかった頃、お母さま（実母）はどんなふうにあなたと接してくださいましたか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 違う
1. 可愛がってくれた……………	34.2	44.6	14.3	6.3	0.6
2. しつけがきびしかった……………	13.0	32.2	25.5	26.0	3.3
3. あなたが家に帰ったときには、 いつも「おかえり」と言って 迎えてくれた……………	36.8	22.9	12.8	17.3	10.2
4. おやつや食事のことを細かく 気にかけてくれた……………	15.6	23.6	23.9	29.8	7.1
5. 宿題や勉強をいねいに見て くれた……………	5.9	11.4	17.1	39.5	26.1
6. あまりかまってもらえず、何 でも自分(子どもたち)でした…	6.8	23.7	24.9	27.4	17.2
7. 忙しくてあまり話し相手にな ってくれなかった……………	6.5	16.8	24.6	30.0	22.1

③ 次に、あなたのことについてうかがいます。

1) お子さんが4、5歳の頃に、あなたはお子さんをどんなふう to 育てましたか。

	とても そうだった	わりと そうだった	少し そうだった	あまり そうでなかった	全然 そうでなかった
1. 休日によく遊園地に連れて行 った……………	14.7	31.9	24.8	24.1	4.5
2. よく写真を撮った……………	28.5	40.5	19.6	10.2	1.2
3. よく手作りおやつを用意した…	9.4	20.3	33.5	30.1	6.7
4. お弁当をいろいろ工夫してや った……………	14.1	32.5	33.5	16.9	3.0

● 資料 調査票見本および集計結果

	とても そうだった	わりと そうだった	少し そうだった	あまり そうでなかった	全然 そうでなかった
5. よく一緒に遊んだ……………	21.8	39.5	26.1	11.2	1.4
6. よく本を読んであげた……………	23.2	32.2	26.3	16.1	2.2
7. 寝るときなど、よくお話をし てあげた……………	20.5	26.9	26.0	21.8	4.8
8. スポーツクラブに送り迎えし た……………	20.2	15.5	9.4	7.6	47.3
9. 習い事（ピアノやお絵描き） に行かせた……………	15.9	17.3	14.5	8.6	43.7
10. よくスーパーなどに一緒に行 った……………	52.6	31.6	9.9	4.2	1.7
11. 叱ることが多かった……………	9.1	29.5	35.8	22.5	3.1
12. あまり話し相手になってやれ なかった……………	1.9	9.2	24.9	39.2	24.8
13. 忙しくて、家にいないことが 多かった……………	3.0	6.0	8.2	15.9	66.9
14. あまり「おかえり」と言って やれなかった……………	4.6	3.9	5.7	11.6	74.2

2) あなたは今、お子さんを育てるときに、どんな配慮をしておられますか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 違う
1. ほしいものをできるだけま んさせようようにしている……………	8.8	35.9	40.3	13.4	1.6
2. 叱るときは、子どもの気持ち を考えて叱る（むやみに叱ら ない）……………	8.0	24.3	35.0	29.4	3.3
3. 子どもが帰ってきたとき、家 にいてやるようにしている……………	41.9	29.7	11.2	11.2	6.0
4. できるだけお手伝いをさせて いる……………	11.3	35.8	36.6	14.5	1.8
5. なるべく親に甘えないように しつけている……………	6.5	25.3	35.6	27.4	5.2
6. 料理は、味より栄養に気をつ けている……………	8.1	25.8	43.3	20.6	2.2
7. 間食や甘いものをひかえさせ ている……………	7.3	24.4	34.5	30.5	3.3

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 違う
8. ときどき家族そろって外へ食事に出かける……………	12.8	33.7	34.2	15.9	3.4
9. 忙しくても、なるべく子どもの話を聞いてやる……………	17.4	44.6	29.6	7.5	0.9
10. なるべく友だちづき合いをさせるように心がけている……………	33.2	50.4	12.8	3.1	0.5
11. できるだけ強い子にしたいと思っっている……………	41.1	42.3	12.7	3.7	0.2
12. 塾やおけいこごとなど、できるだけのことはしてやりたい…	20.6	28.9	25.9	19.9	4.7

3) あなたはお子さんについて、次のようなことをどのくらいご存知ですか。

	よく 知っている	わりと 知っている	少し 知っている	あまり 知らない	全然 知らない
1. 仲良しの友だちの名前……………	41.1	44.4	13.0	1.4	0.1
2. 得意な教科……………	40.2	40.8	14.5	3.9	0.6
3. 好きなタレントやスポーツ選手の名前……………	22.5	30.1	26.7	15.0	5.7
4. 最近友だちと外で何をして遊んでいるか……………	26.9	42.7	23.0	6.8	0.6
5. 好きなテレビ番組……………	53.7	37.4	7.5	1.3	0.1
6. よく読んでいる本や雑誌の名前……………	46.4	35.9	13.0	4.3	0.4
7. お子さんの心の中……………	7.8	47.6	34.9	8.4	1.3

4) あなたは、もしお子さんに次のようなことがあったら、どのくらい心配なさいますか。

	とても 心配	わりと 心配	少し 心配	あまり 心配しない	全然 心配しない
1. 学校からの帰りがいつもより1時間遅れたとき……………	44.1	27.0	23.9	4.7	0.3
2. 成績が急に下がったとき……………	24.2	30.5	37.0	7.4	0.9
3. 友だちにいじめられて泣いて帰ってきたとき……………	43.0	27.6	22.4	6.0	1.0
4. 先生に叱られて帰ってきたとき……………	19.6	23.9	34.9	18.3	3.3
5. 微熱 (37.0℃) が出たとき……………	11.7	22.0	42.6	21.2	2.5
6. 夕食を半分くらい残したとき…	8.4	21.0	43.1	23.5	4.0

5) お子さんは、どんなタイプですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. 社交性がある……………	18.7	36.6	23.6	19.0	2.1
2. がまん強い……………	13.0	33.0	27.4	24.0	2.6
3. 人見知りをする……………	6.6	18.3	28.1	30.5	16.5
4. やる気がある……………	15.8	35.7	31.0	15.4	2.1
5. 言いたいことがなかなか言え ない……………	7.3	21.3	30.6	29.2	11.6
6. 依頼心が強い……………	5.6	22.5	38.6	28.6	4.7
7. 甘えん坊……………	14.6	31.2	34.2	16.9	3.1
8. わがまま……………	7.4	20.4	32.4	32.1	7.7
9. 気持ちがやさしい……………	43.1	39.4	14.7	2.3	0.5
10. たくましい……………	12.0	25.3	33.0	25.2	4.5
11. のんびりしている（仕事が遅 い）……………	15.7	22.9	27.2	26.4	7.8

6) お子さんは、次のようなことは1人でどのくらいできるでしょうか。

	いつも そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. 朝、起こされなくても、自分 で起きてくる……………	18.0	21.0	19.6	25.9	15.5
2. 朝、言われなくても、学校に 遅れないように家を出る……………	31.6	26.5	16.9	16.7	8.3
3. 明日の時間割を1人でそろえ る……………	72.9	15.8	5.9	4.1	1.3
4. 部屋の片づけを自分でする……………	18.6	22.4	26.1	24.1	8.8
5. 言われなくても宿題をする……………	33.6	25.3	19.3	15.8	6.0
6. おとなにきちんとあいさつが できる……………	23.5	33.5	26.7	14.4	1.9

7) あなたは、どんなタイプのお母さんですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. 料理が好き……………	12.4	32.1	28.3	23.2	4.0
2. 友だちが多い……………	15.6	34.7	29.6	17.9	2.2
3. 家計のやりくりが上手……………	5.3	16.7	27.4	39.1	11.5
4. お客を招いたり、友人を呼ぶ のが好き……………	13.6	24.5	30.6	25.6	5.7
5. 親戚づき合いをまめにしてい る……………	9.6	24.9	33.7	26.1	5.7
6. 掃除が好き……………	15.2	24.3	27.2	27.4	5.9
7. スポーツをしている……………	8.7	12.0	15.4	25.1	38.8
8. 仕事（家業なども含めて）を するのが好き……………	17.4	33.2	29.3	16.4	3.7
9. （他人の子どもも含めて）子ど も一般が好き……………	14.6	35.4	26.8	19.1	4.1
10. 外出が好き……………	20.9	34.0	25.6	16.6	2.9
11. 洗濯が好き……………	34.0	35.7	21.1	8.3	0.9
12. 新聞や本をよく読む……………	25.6	31.0	28.3	13.0	2.1
13. 夫の世話（食事や身の回り） をまめにする……………	12.8	28.3	31.2	22.6	5.1
14. おしゃれ……………	10.8	25.7	34.1	23.2	6.2
15. おけいごとをしている……………	5.1	11.0	13.1	13.4	57.4
16. 家事をきちんとするのが好き…	14.5	28.1	30.6	21.9	4.9

8) 最近、あなたの体の調子はどうですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. 元気はつらつ……………	12.7	36.0	23.5	23.8	4.0
2. よく肩がこる……………	17.3	23.8	21.7	19.2	18.0
3. よく眠れる……………	35.6	33.1	15.3	14.1	1.9
4. 食欲がない……………	2.0	5.3	14.2	38.7	39.8

● 資料 調査票見本および集計結果

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
5. いらいらして怒りっばい……………	7.1	16.6	38.9	29.3	8.1
6. 体力が落ちてきた……………	16.6	29.3	37.6	11.2	5.3
7. 小さいことが気になる……………	7.7	18.1	29.1	31.9	13.2
8. よく落ちこむ……………	6.0	14.6	25.0	37.0	17.4

9) 次のことについての、あなたの気持ちをお聞かせください。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. もっと自分だけで使える自由 な時間がほしい……………	27.1	23.3	22.6	21.7	5.3
2. 子育てに手がかからなくなっ たら、何かを始めたい……………	35.7	31.0	20.7	9.9	2.7
3. いつも子どもにふりまわされ ているような気がする……………	9.9	15.9	26.7	35.0	12.5
4. 子どもだけを生きがいはし たくない……………	33.3	34.0	20.3	7.3	5.1
5. 毎日が単調だ……………	9.8	19.4	28.3	29.4	13.1
6. 一日の中で、時間をもてあま すことがある……………	1.6	3.9	11.6	33.7	49.2

10) ご主人はどんな方ですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. お子さんと遊ぶのが好き……………	20.3	30.0	27.1	17.6	5.0
2. お子さんの世話をするのが好 き……………	10.8	24.5	27.7	27.5	9.5
3. (他人の子どもも含めて)子ど も一般が好き……………	13.3	32.6	26.1	22.5	5.5
4. まめに家事を手伝ってくれる…	10.1	21.5	24.2	23.8	20.4
5. 家庭第一主義……………	14.8	27.2	21.4	24.9	11.7
6. 忙しく会社やお店の仕事をし ているのが好き……………	15.8	26.0	30.5	22.0	5.7
7. 夜の帰りが遅い……………	21.0	21.8	21.3	19.7	16.2
8. 女性の社会参加に理解がある…	11.3	31.0	31.6	18.9	7.2

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
9. 自分の身の回りのことは結構 自分でする……………	20.6	33.8	18.4	17.5	9.7
10. 友だちが多い……………	17.3	34.7	24.1	18.9	5.0

11) ① おばあちゃん（どちらかのお母さん）と現在、同居しておられますか。

- 1. 同居している 20.4
- 2. 以前、同居していた 13.6
- 3. 同居したことはない 66.0 → 12) に進んでください。

→ ② おばあちゃんは、お子さんが乳幼児の頃、家事や育児を分担していただきましたか。

	全面的に してくれた	かなり してくれた	少しは してくれた	ほとんど してくれなかった
1. 育児……………	12.0	28.2	35.7	24.1
2. 家事……………	11.2	28.4	32.8	27.6

次に現在、おばあちゃんと同居している人だけにうかがいます。

同居していない人は12) に進んでください。

③ 最近、おばあちゃんは家事や子育ての分担をしていただけますか。

	全面的に してくれる	かなり してくれる	少しは してくれる	ほとんど してくれない
1. 育児……………	5.2	24.8	29.8	40.2
2. 家事……………	7.7	21.8	34.2	36.3

12) お子さんは現在のところ、うまく育っておいですか。

	とても 安心できる	まあまあ 安心できる	少し 欠ける	大いに 欠ける
1. 生活習慣（しつけ）……………	8.4	63.6	26.8	1.2
2. 社会性（友人関係）……………	15.5	71.5	12.4	0.6
3. 根性（たくましさ）……………	12.2	52.1	32.5	3.2
4. やる気……………	13.1	57.9	26.7	2.3
5. 自立心……………	12.6	55.4	30.0	2.0
6. 思いやり（気持ちのやさしさ）……	37.4	54.3	7.8	0.5
7. 成績……………	8.6	66.4	21.5	3.5
8. 健康……………	31.3	58.9	8.5	1.3

● 資料 調査票見本および集計結果

13) 子どもができたために、あなたが人生で得たもの・失ったものは何ですか。

	全く その通り	わりと その通り	少し その通り	あまり そうでない	全然 そうでない
1. 毎日が楽しくなった……………	26.3	46.1	19.9	6.7	1.0
2. 仕事をやめなければならなくな った……………	13.4	8.3	14.5	17.8	46.0
3. たくましくなった……………	36.4	38.0	18.7	5.5	1.4
4. 身なりにかまわなくなった……	8.4	16.8	30.8	30.3	13.7
5. ていねいに家事をすることが できなくなった……………	6.2	16.2	34.0	34.4	9.2
6. 生きがいができた……………	21.8	33.1	30.7	12.6	1.8
7. 謙虚になった……………	6.8	18.8	41.2	28.7	4.5
8. 遊びや楽しみの時間がなくな った……………	7.2	17.8	30.8	33.2	11.0
9. 忍耐強くなった……………	17.7	35.3	32.3	12.2	2.5
10. ストレスが増えた……………	11.0	22.1	37.8	22.2	6.9
11. 将来が明るくなった……………	11.8	28.8	36.9	19.9	2.6
12. 経済的ゆとりがなくなった……	12.5	20.4	33.7	27.3	6.1
13. 地域に友だちが増えた……………	26.0	38.4	23.4	9.3	2.9
14. 自分の人間としての成長が止 まった……………	0.7	2.4	7.3	48.7	40.9
15. 赤の他人にもやさしくなった…	10.7	35.1	40.8	11.8	1.6
16. 精神的にゆとりがなくなった…	3.2	10.6	24.6	47.7	13.9
17. 家族がまとまった……………	19.7	40.6	28.8	9.3	1.6
18. 自分の中に、人間としての幅 ができた……………	17.4	35.7	34.9	10.9	1.1
19. 落ち着いてものを考える時間 がなくなった……………	4.9	11.9	28.9	42.0	12.3

14) 「子ども」とは、あなたにとってどんな存在ですか。

	とても そう	わりと そう	少し そう	あまり そうでない	全然 そうでない
1. お金がかかるもの……………	10.5	22.7	38.8	18.2	9.8
2. 手間のかかるもの……………	15.1	27.3	35.7	14.8	7.1
3. 心配の種……………	16.0	27.4	36.0	14.6	6.0
4. 思うようにならないもの……………	19.6	28.4	32.6	14.0	5.4
5. 夫婦のかすがい(つなぐもの)…	21.3	27.3	29.8	14.9	6.7
6. 家族の話題の中心……………	28.6	41.6	23.1	5.6	1.1
7. 無条件に可愛いもの……………	42.2	31.9	17.0	7.3	1.6
8. 人生の負担……………	2.0	3.7	10.8	33.5	50.0
9. 人生の希望……………	16.6	30.8	34.3	15.8	2.5
10. 家の跡継ぎ……………	6.0	9.3	22.6	35.5	26.6
11. 心の支え……………	28.5	37.5	25.6	7.2	1.2

15) 経済を考えた場合、お子さんが望んだら、将来どこまで学校に行かせてやるご予定ですか。該当するところを○で囲んでください。男女両方いらしたら、①と②の両方にお答えください。

① 男のお子さん…… (1. 高校 2. 専門学校 3. ふつうの大学
7.3 6.6 55.2

4. むずかしい大学 5. 大学院)
11.8 19.1

② 女のお子さん…… (1. 高校 2. 専門学校 3. 短大
8.7 12.5 19.4

4. ふつうの大学 5. むずかしい大学
39.0 7.4

6. 大学院)
13.0

16) 70歳を過ぎて（お2人とも仕事をやめて引退したら）あなたは、できればお子さんとどのくらいの距離に住みたいですか。男女両方いらしたら、①と②の両方にお答えください。

① 男のお子さんの場合

1. 完全な同居	3.1
2. 2世帯住宅（玄関やトイレ、台所なども別）で同居	12.1
3. 近所に住む（歩いていけるところ）	24.1
4. できれば電車や車で数時間の範囲に	11.6
5. 外国でも可	2.3
6. とくにこだわらない	46.8

② 女のお子さんの場合

1. 完全な同居	2.3
2. 2世帯住宅（玄関やトイレ、台所なども別）で同居	10.1
3. 近所に住む（歩いていけるところ）	33.5
4. できれば電車や車で数時間の範囲に	19.5
5. 外国でも可	1.5
6. とくにこだわらない	33.1

17) あなたは今、お幸せですか。

とても 幸せ	かなり 幸せ	まあ 幸せ	あまり 幸せでない	全然 幸せでない
30.6	23.4	42.9	2.4	0.7

●お手数ですが、下記の設問にご回答ください。

1. この調査票を持ち帰られたお子さんの学年

() 年

1年	17.3	4年	16.7
2年	13.9	5年	17.6
3年	12.8	6年	21.7

2. お差しかえなければ、あなた（お母さまご自身）の年齢をお教えてください。

() 歳

25歳以下	0.7	36～40歳	41.4
26～30歳	4.9	41～45歳	20.5
31～35歳	29.5	46歳以上	3.0

3. あなたが就職なさった年齢は、何歳でしたか。（家業も含めます。）

() 歳

18歳	49.3
19～20歳	29.6
21～22歳	15.0
その他	6.1

～これで終わりです。ご協力ありがとうございました。～